

Nagoya GRAMPUS

名古屋 グランパス ワイズメンズクラブ
 NAGOYA YMCA 5-29KAMIMAEZU2-CHOME NAKAKU,
 NAGOYA 460 JAPAN



1993年 12月号

- ① 国際会長標語 In sharing we have forever “いつもわかち合いの心を”
- ② アジア会長標語 Think ASIA think Y' SDOM “考えようアジアとワイズ”
- ③ 日本区理事標語 Create a new age “創造しよう新時代”
- ④ 中部部長標語 伸ばそう中部にワイズの輪
- ⑤ 会長標語 温かい心で、まず右手をあげよう。

〈今月の聖句〉

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインスマエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおりに、妻を迎え入れ、男の子が生まれうまでマリアと関係することはなかった。そしてその子をイエスと名付けた。
 (マタイによる福音書 第1章23節～25節)

強調月間: IBC・YEEP

グランパストーク

今、私が心がけていること

加藤 道子

自分の話したことが、自分の意味することと全く違うように受け取られた体験をほとんどの人が持っているのではないのでしょうか。人間は、それぞれ自分の物の見方や考え方、行動の仕方すなわちライフスタイルを持っていて、そのライフスタイルで、見たり、聴いたり話したりするからです。最近そのことに改めて気づきました。自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが理解できないと思ひこみ、イライラしたり、不安な気持ちや怒りというマイナスの感情を持つことが多かったように思えます。しかし考えてみるとそれらは

すべて自分の都合のいいように、相手のライフスタイルを判断したり、自分の価値観に合わせようとしていたことによって起こるマイナス感情だったのです。他己受容、自己受容ができてはじめて自然で建設的な人間関係が生まれるのでしょう。これが実際にはとても難しいものです。相手も自分も、子供の頃から真の感情を出さない訓練を受けすぎているのかもしれない。相手のライフスタイルを勝手に判断する事にあまりにも馴れすぎているのかもしれない。相手には相手のライフスタイルがあると気づいただけでもマイナス感情を持たなくて済むようになったのでとても楽です。他己受容、自己受容ができた建設的な人間関係からは、それよりもっと進んだ勇気づけが得られるのではないのでしょうか。少しずつでも心がけていきたいと思ひます。

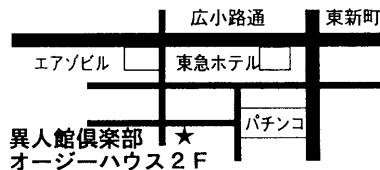
1993年12月例会のご案内

第一例会〈クリスマス祝会〉

と き; 12月5日(日)16時～19時
 と ころ; 異人館倶楽部(2F)オージーハウス
 住所 中区栄4-8-8
 TEL 241-5870
 ドライバー: 加藤道子君・
 アシスト: 丹羽真清君

クリスマスの意義、神について、愛について一人一人、またご家族揃って考えてみる機会づくりの祝会にしたいと思っています。キャンドルサービス、寸劇、サンタクロースと一緒に写真撮影、ゲームetc……

普段ではみられないメンバーの意外な一面がみられるかもしれません。主役は皆さんとご家族です。まずは参加して楽しく為になるクリスマス祝会にしましょう。当日会場はディズニールランドよりおもしろいはず。出席の返事はお早めに!!
 交換プレゼント(500円程度)をお持ち下さい。



欠席者は12月4日(土)の正午までにYMC A (TEL 321-1600 FAX 331-6739連絡先、社体 木野村主事へ)連絡下さい。

第二例会

と き; 12月21日(火) 19時～20時30分
 と ころ; 名古屋YMCA(上前津)
 プログラム;'94前半のプログラム他
 《忘年会》
 と き; 12月28日(火) 19時から
 と ころ; 未定

11月24日現在	例 会 出 席 状 況				B F ポ イ ン ト		ク ラ ブ フ ァ ン ド (11月)	
	在 籍 者	23名	第 1 例 会	15名	当 月 ・ 切 手	—	ニ コ B O X ノ ー ト	—
	例 会 出 席 者	17名	第 2 例 会	11名	当 月 ・ 現 金	—	フ ァ ン ド	—
	当 月 出 席 率	73.9%	部 会 他	18名	累 計	—	合 計	—

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”
 =強い義務感を持とう。義務はすべての権利に伴う=

12月第一例会報告

ドライバー；尾崎史郎君

アシスト；高橋栄造君

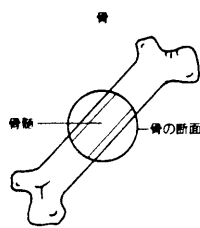
《骨髄移植とその現状》

講師 大谷 貴子氏

今回は、慢性骨髄性白血病を克服され現在、東海骨髄バンク理事として白血病に苦しむ方の為に骨髄移植と、意義について広く社会に、知ってもらい運動を奨めておられる大谷貴子氏をお招き致しました。一言で白血病とは血液の癌、このことは皆さんも知っていると思いますが、一般的にいわれる白血病には〔急性リンパ性〕〔慢性リンパ性〕〔急性骨髄性〕〔慢性骨髄性〕に分けられ、大谷氏は昭和61年に慢性骨髄性白血病と診断され、またその病名の告知もされたとのこと。いったん白血病と診断されても発病までの期間（慢性期）は3～4年あり、その間に移植等の治療をするのが一般的とのことですが、大谷氏もいろいろな困難を乗り越えられて、昭和63年に実母から骨髄移植となり現在は完治され活躍されています。白血病には骨髄移植が現代医学では最高の治療ですが、移植される骨髄とは、人の腰や背中、大腿骨の骨の内部にあります。

骨髄とは

骨髄は腰や背中や胸の骨の内部にあるゼリー状の組織で、血液をつくる場所です。骨髄は骨髄液という血液に似た赤い液体で満たされています。この液体中には赤血球、白血球、血小板といった血液の成分のもとになる骨髄幹細胞が含まれています。



血液を作る髄液は人の血液の種の比ではなく、血液型（HAL）の一致には日本人では500～1万分の1、他の大陸系の人種では10万分の1と天文学的な確率となりこのことが治療する以前の大きな問題となっています。

又、現在骨髄提供者（ドナー）に対しての、社会的なバックアップ、たとえばドナーの登録の手間や時間、骨髄を提供するにあたって4日間の時間がかかる為の社会的保障等の確立（一部大企業にはボランティア休暇の採用）の不備等の難問題がたくさん有ることが骨髄移植治療の壁となっている。

しかし、現実問題として、骨髄の提供がな



いために生命をなくされていく白血病の方が毎年たくさんいる事には変わらない、この現実を考え解決していく第一歩として、ドナーとなる資格を持っている我々がまずドナーの登録をすることだと思います。

正しい骨髄移植についての知識を持ちそして人のためとのボランティア精神で行動する事、この事が回り回って家族や自分自身のためになる事でもある。

大谷氏は一人でも多くの人々に骨髄バンク運動を理解してもらい、ドナーとして難病に苦しむ方たちのために登録していただく為に活動していかれるとの事です。

また講演後に著書「霧の中の生命」の販売（売り上げの一部は骨髄バンクに寄付）がありメンバーも購入、それと当日のニコノートの全額を骨髄バンクに寄付金として大谷氏に贈呈しました。

卓話後、韓国OGCHONクラブとのIBC締結を正式に決定しました。

ゲスト：城さん（井川）、丹羽さん（加藤）、水野姉妹（坂口）、坂口メネット、吉田メネット、（ ）内は紹介者

’93秋“バザー”ご苦労様でした。

秋のバザー、今年は上前津に加えて、南山のバザーにも参加、YMCAのボランティアサービス資金として総額約26万円の協力をすることができました。

“特製牛どん” 顛末記

秋はバザー、グランパス2年目のバザーは昨年の反省を生かし、“牛どん”に挑戦しました。

試作販売と言っては南山Yにしかられるかも知れませんが10月23日(土)に南山YMCAに集合翌日の南山バザーの為の準備を行いました。坂口会長が当日3本も釣り上げたと言う超大型ハマチ(ブリ?)のお刺身とアラ煮をつまみに?タマネギ切り、米かし、PR用ポスター作りと準備を進める内に試作品も完成、試食会を実施、会場準備に奮闘中のリーダー諸君の夜食としても提供し評判も上々これは行けるぞ!

明けて24日、早朝より急拠付けることになった“赤だし”も含めて準備完了、10時の開場と同時に人出もたくさんあり活況を呈するも牛どんの囲りは異常な静けさ、朝メン代りに牛どんは不向きだったか? 強カツ、同情等により一部の顔見知り客のみで昼近くになり、少しあせりも出たところで、再三の館内放送“待たずに食べられる牛どん”の効果もあってお客さんも増え先ずは一安心、他の売店が売り切れとなる中、我ら牛どんは最後まで販売継続し、遂には行列の出来る盛況でありました。売上高“44,522円”也。



1週間後の10月30日南山の反省を生かして大ブリのドンブリを用意、小ブリのカンビールの販売も加えて本館バザー、スタート時にはやはり出足があまり良くなく、カンビールのみが売れると言うおまけもあるも、昼食時には味の良さ、場所の良さ、売り子の良さ、もそろって快調な売行きとなり予定の米15升分を消化。

売上高“73,300円”也

評価の分かれた“牛どん”ではありましたが何はともあれご協力いただいたメンバーの皆さん本当にご苦労様でした。来年はカレーうどん、特製コーンスープと言った声も出ている様です。新しい試みに挑戦するのがクラブのアイデンティティであるのかも、あなたのフレッシュアイデア募集!



◎今年も大好評“藤製品”

売店は去年もお世話になった城さんのお店の藤製品、井川兄の売り場の設定のうまさも手伝い開店と同時に目ぼしい商品売り切れと言う押すな、押すなの大盛況、やっぱりプロの商売人は一味違うと言うことを今年も実感

売上高“116,390円”也

◎原価“ゼロ”はやっぱり高収益

昨年は仕入商品(ネクタイ、キャンプ用品etc)で手間の割には収益、今一つであった教訓を生かし、今年の売店はメンバーの持ち寄った提供品を販売、超特価もあって完売御礼となりました。坂口会長のご家族による手作りの袋物を初め、ご協力いただいた皆さんに感謝!

売上高“22,800円”也

ひとつのひとつの心が大きな力へ

YMCA秋の国際協力キャンペーン街頭募金が去る11月14日（日）市内8ヶ所と東海、半田、豊田の各市で大人95名、子供190名の協力のもとに一斉に行われ、総額70万円弱の募金を集めることができました。不況の影響が心配されましたが、天候にも恵まれ去年に比べ約一割の金額増でした。

クラブとしても新設のワイズデー行事として位置付け取組み、担当エリアは栄三越前を中心とした計5ヶ所でYMCA野外活動のリーダー、子供達と一緒に行いました。

参加者、内垣内、吉田（正）、木野村、吉田（一）、吉田（一）メネット



93-94 出席表

93.9.20

No	例会氏名	10/23南山バザー	10/24南山バザー	10/30バザー	10/31バザー	11/8第一例会	11/14募金	11/24第二例会	出席ポイント
1	阿部 一雄	○	○	○	○	○	○		15
2	荒川 恭次	○	○	○	○	○	○		5
3	井川 幸吉	○	○	○	○	○	○		11
4	池野 輝昭	○	○	○	○	○	○		11
5	伊左治 真	○	○	○	○	○	○		1
6	内垣内登壘	○	○	○	○	○	○		5
7	馬場寅太郎	○	○	○	○	○	○		11
8	尾崎 史郎	○	○	○	○	○	○		11
9	加藤 道子	○	○	○	○	○	○		9
10	坂口 功祐	○	○	○	○	○	○		15
11	坂倉 洋	○	○	○	○	○	○		12
12	佐藤 壽晃	○	○	○	○	○	○		7
13	滝川 眞充	○	○	○	○	○	○		12
14	林 勝博	○	○	○	○	○	○		4
15	三井 秀和	○	○	○	○	○	○		13
16	宮木常二郎	○	○	○	○	○	○		5
17	油口 直広	○	○	○	○	○	○		8
18	吉田 一誠	○	○	○	○	○	○		19
19	吉田 正	○	○	○	○	○	○		13
20	高橋 栄造	○	○	○	○	○	○		3
21	丹羽 真清	○	○	○	○	○	○		10
22	木野村 映	○	○	○	○	○	○		14
23	坂野 清治	○	○	○	○	○	○		6

ニコノート 11/8

佐藤壽晃	10月色々サポートありがとうございました	1,000
加藤道子	今日のお話に感謝して	2,000
滝川眞充	バザー当日お手伝い出来なくてゴメンナサイ。	1,000
吉田一誠	バザーご苦労様でした。	1,000
林 勝博	教育フェスティバル参加お願いします	1,000
阿部一雄	バザーの時は体調をくずし迷惑をおかけしました。	1,000
三井秀和	バザーには参加出来なくてすみません	2,000
坂口功祐	今月は自分のたんじょう日です。新しいつり具を	2,000
吉田 正	今日の卓話に感謝して	1,000
井川幸吉	来年のバザー売上げ増	1,000
丹羽真清	お話を聞けるチャンスを与えて下さってありがとう	1,000
坂倉 洋	健康な体に感謝して	1,000
合 計		15,000

11月ニコノートのお金は全額（財）骨髓移植推進財団へ寄付させていただきます。

“訂正” 11月号ブリテンのグランパストークの文中“萩野検校”は“萩野”の誤りでした。

1993-1994年度役員

会 長	坂口
副 会 長	林、内垣内
書 記	三井、滝川
会 計	宮木、尾崎
E M C	吉田(一)、吉田(正)
YMCA.S	阿部、井川
C.S B.F	荒川、馬場、坂倉
I B C	佐藤、池野
ファン ド	滝川、高橋、尾崎、宮木
プ ロ グ ラ ム	林、油口、加藤、丹羽
ブ リ テ ン	伊左治、内垣内、三井、吉田(一)、木野村
直 前 会 長	吉田一
連 絡 主 事	木野村